



第 3 章 将来都市像

第3章 将来都市像

3-1 将来都市像と都市の目標

都市の将来都市像は、第三次御殿場市総合計画との整合を図り『緑きらきら、人いきいき、御殿場』と設定したうえで、今回の策定テーマを「地域活力の創出と安全・安心のまちづくり」とし、今後の都市づくりに向けた目標を以下に整理します。

(将来都市像)

「緑きらきら、人いきいき、御殿場」

テーマ 地域活力の創出と安全・安心のまちづくり
～「御殿場型NPM」と「市民協働のまちづくり」～

《安心定住》 **快適に暮らし、安全・安心して住めるまち**

子どもからお年寄りまで、幅広い世代が快適に暮らし、安全・安心して住み続けることができる都市づくりを目指します。

《自然》 **豊かな自然環境を守り、育て、継承するまち**

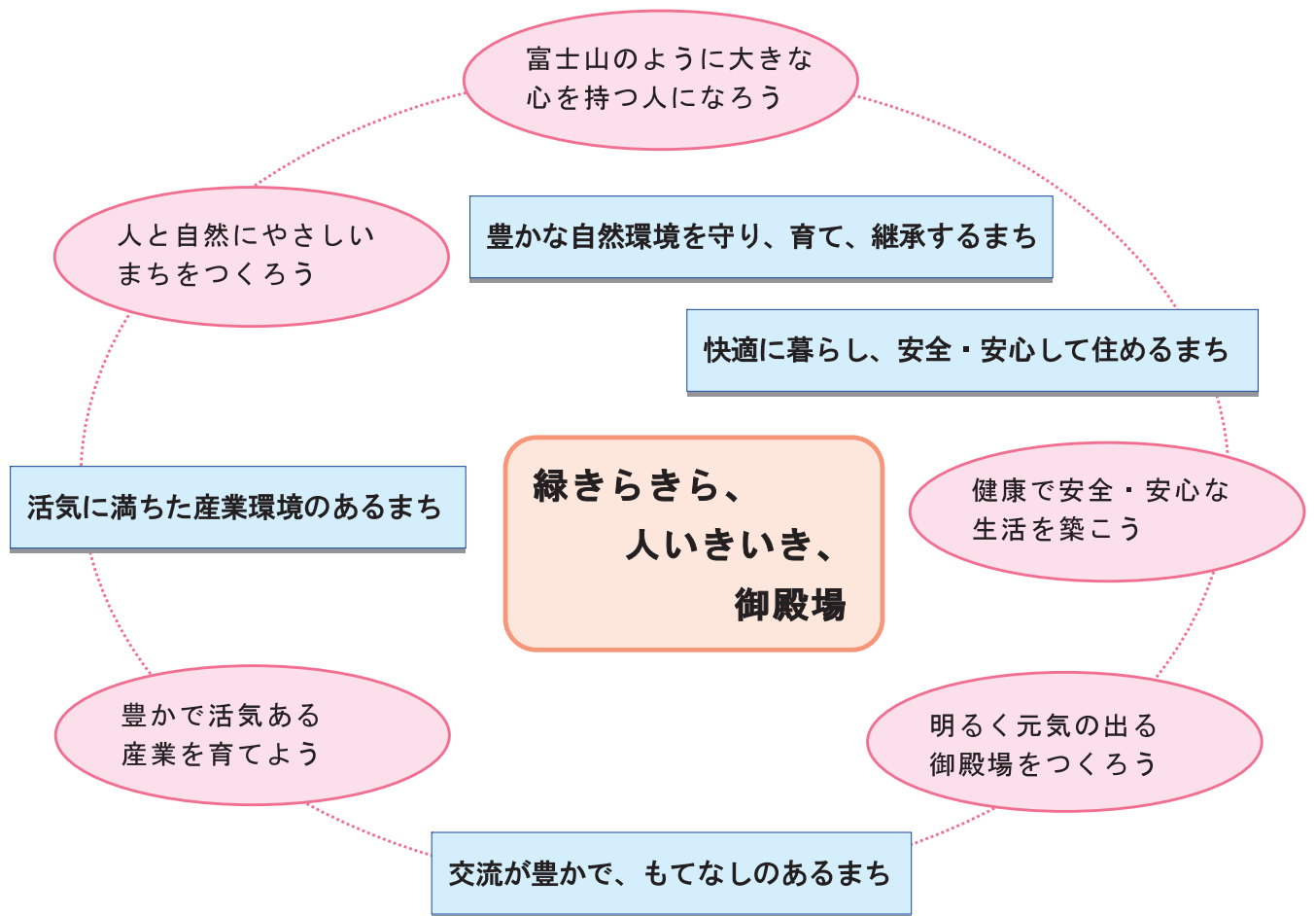
富士山や箱根外輪山を始めとする豊かな自然環境を保全するとともに新たな自然の創出にも努め、次世代に継承していくことを目指します。

《活力》 **活気に満ちた産業環境のあるまち**

恵まれた立地条件を活かして、工業、流通、商業、観光などそれぞれの産業基盤を整え、活気に満ちた産業環境の形成を図ります。

《交流》 **交流が豊かで、もてなしのあるまち**

NPOなどの「新たな公」が自ら考え、活動するとともに、交通基盤などを整備しネットワークを充実させることで、市の内外にわたる交流人口の増加を目指します。

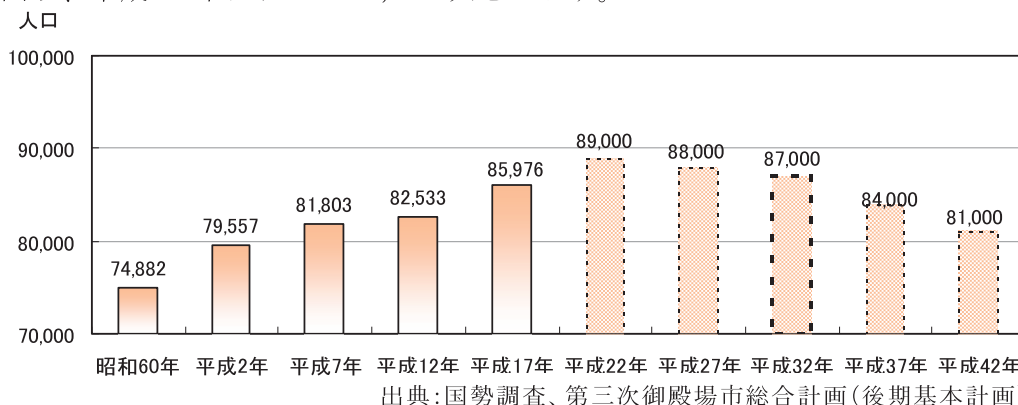


3-2 将来フレームの設定

(1) 各フレームの設定

■将来人口フレーム

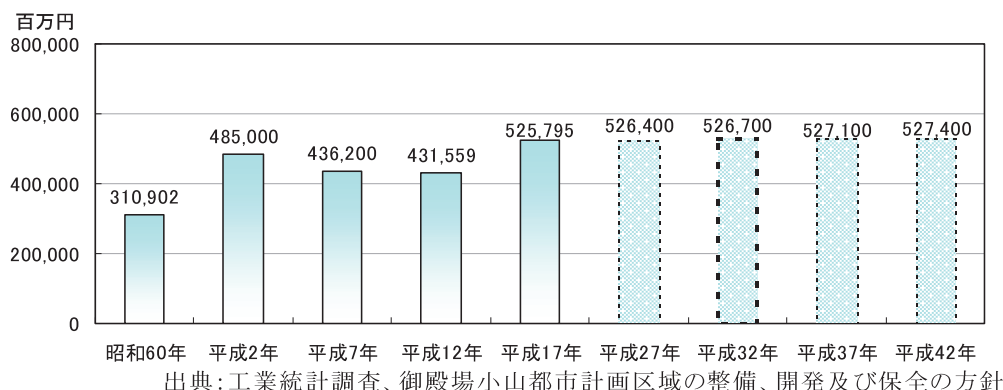
本市の将来人口フレームは、第三次御殿場市総合計画（後期基本計画）との整合を図り、平成32年において87,000人とします。



■人口の推移と将来目標人口

■工業フレーム

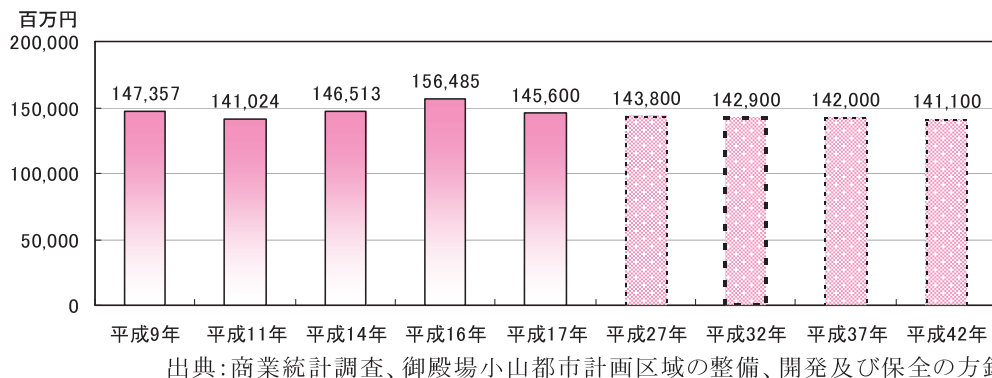
平成32年における製造品出荷額等^{※1}は、御殿場小山都市計画区域の整備、開発及び保全の方針との整合を図り、5,300億円とします。



■製造品出荷額等の推移と将来目標

■商業フレーム

平成32年における年間商品販売額^{※2}は、御殿場小山都市計画区域の整備、開発及び保全の方針との整合を図り、1,400億円とします。



■年間商品販売額の推移と将来目標

※1：1年間における製造品出荷額、加工賃収入額、製造工程から出た廃物の出荷額の合計。

※2：調査前年度の商品販売額をいい、消費税を含んだ額である。

3-3 将来の都市構造

将来都市構造は、将来都市像を踏まえ、都市機能を重点的に集積・維持する区域を都市核と定めるとともに、都市拠点や地域拠点などを有機的に結ぶ軸を都市軸とし、適切な土地利用や都市施設等を配置します。

(1) 都市核の形成

本市の都市核は、市街地の中心となる都市拠点とそれを補完する市役所支所周辺の地域拠点、並びにスポーツ拠点や歴史・文化拠点で構成します。

都市拠点

これまで本市の中心地として機能してきたJR御殿場駅周辺を位置づけ、商業・業務機能や居住環境の向上とともに公共施設の誘致にも努め、人びとが快適かつ安全に暮らすことができる利便性の高い魅力的な拠点を目指します。

地域拠点

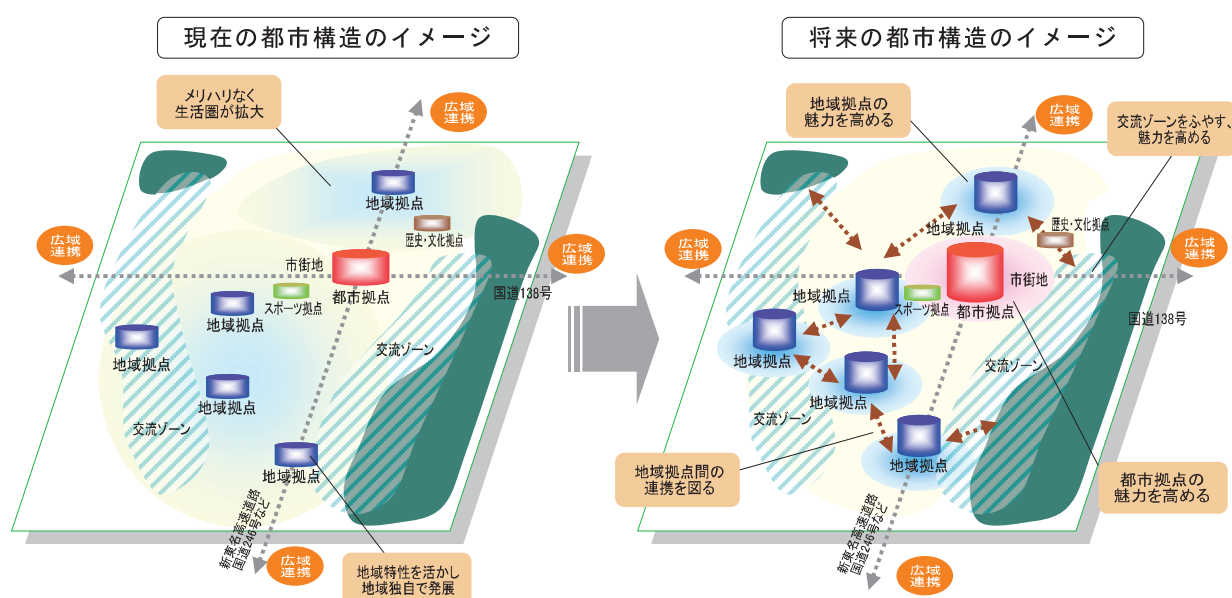
市制施行以前より市内に分散して形成されている支所周辺の集落を位置づけ、自然との共生を図りながら、居住環境や日常生活機能の向上を図る拠点を目指します。

スポーツ拠点

陸上競技場、体育館等を含んだ総合体育施設周辺や、市北部や南部の東富士演習場周辺に予定されている運動施設周辺をスポーツ拠点として位置づけ、施設の整備、充実を図る拠点を目指します。

歴史・文化拠点

深沢城跡周辺や、御殿場市の地名発祥の地周辺を本市の歴史拠点とし、東山地区の旧岸邸や秩父宮記念公園などが広がる一帯を文化拠点と定め、本市の成り立ちなどを感じることができる拠点を目指します。



■ 将来都市構造の拠点配置概念図

（２）都市軸の形成

都市軸としては、広域的な連携を図る広域連携軸、市街地を環状に連絡する環状軸、交流ゾーンの機能を高める交流軸、産業基盤施設を連絡する産業軸を位置づけます。

広域連携軸

広域連携軸は、高速道路２路線（東名高速道路、新東名高速道路）、国道３路線（国道１３８号、国道２４６号、国道４６９号）及び鉄道１路線（ＪＲ御殿場線）を位置づけます。

広域連携軸と以下に示す環状軸、交流軸及び市内道路網とのネットワークを形成し、広域交流と市内交流の促進を目指します。

環状軸

環状軸は、市街地の外郭を形成する（都）※^１ 御殿場高根線、（都）東部幹線、（都）高根西部幹線を位置づけ、都市拠点とともに、地域拠点とのネットワークを形成します。

交流軸

交流軸は、富士岡、印野などの地域拠点とともに、交流ゾーンを連絡する広域農道（ロマンチック街道）や団地間連絡道路（ぐるり富士山風景街道）を位置づけます。

これらの軸の沿道は、自然環境等の地域資源を活かした景観形成や観光・レクリエーション空間の創出を図ります。

産業軸

産業軸は、（都）神場板妻線、（仮称）印野板妻線、市道０１０８号線を位置付け、産業基盤施設をつなぐ連絡道路として、工業・流通ゾーンを結ぶネットワークを形成します。

※１：都市計画道路の略

（３）土地利用の配置

土地利用の配置については、都市核及び都市軸の配置を踏まえ、以下のように設定します。

豊かな暮らしゾーン

住居系の土地利用を中心に、快適な市民生活を営むための環境整備を図る地域とし、現行の市街化区域※¹を位置づけます。

J R 御殿場駅を中心とする商業業務等の集積が見られる地域は、本市の都市拠点として、都市的サービスを楽しむことができるような整備を図る地域とします。

環境に配慮した工業ゾーン

市西部に広がる現在の工業系用途地域周辺は、本市の工業生産を支える地域とします。

ゆとりの暮らしゾーン

現在の市街化区域に連なる国道 246 号と（都）御殿場高根線の間の地域とし、新東名高速道路の（仮称）御殿場インターチェンジ開設に伴う土地利用が予想されることから、農業的土地利用との整合を図りつつ、生活利便施設やゆとりある住宅地を創出するための地域とします。

自然環境ゾーン

都市的土地利用地域を取り囲む農地や樹林地を位置づけ、市民や来訪者へ潤いを与えるとともに、観光資源としての魅力向上に努め、過度な開発を抑制し営農環境の整備等を図りつつ、地域拠点の周辺など地域資源の活用を促進する地域とします。

自然保全ゾーン

良好な自然環境を有し景観形成上も重要な箱根外輪山や、優れた自然環境を有する高根地域西部の樹林地を位置づけ、都市の骨格を構成する緑地として保全する地域とします。

交流ゾーン

箱根山麓及び解放国有地を含む団地間連絡道路沿いの地域において、恵まれた自然環境や交通条件など、地域ポテンシャルの高い地域を交流ゾーンとして位置づけます。

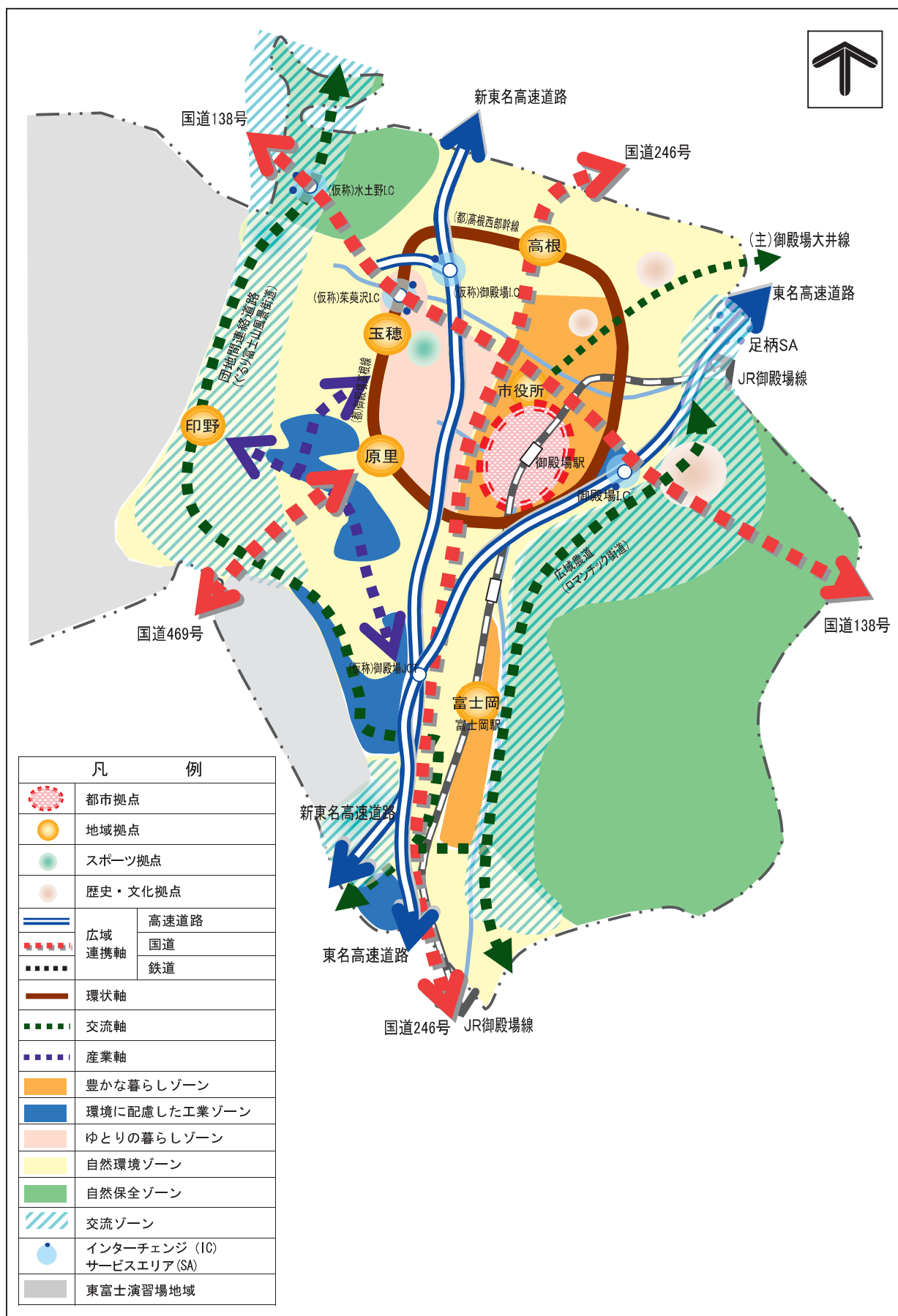
交流ゾーンは、本市の産業基盤を支える観光・交流・保養地域として機能を高めるとともに、広域農道（ロマンチック街道）や団地間連絡道路（ぐるり富士山風景街道）などの道路網の整備などによりネットワーク性を高めます。

東富士演習場地域

東富士演習場地域は、国家的観点からその配置がなされており、存続が見込まれる地域です。

これらを概念として示したものを、将来都市構造図とします。

※1：すでに市街地を形成している区域および、おおむね 10 年以内に優先的かつ計画的に市街化を図る区域（都市計画法第 7 条第 2 項）。



■ 将来都市構造図

※1：すでに市街地を形成している区域および、おおむね10年以内に優先的かつ計画的に市街化を図る区域（都市計画法第7条第2項）。

